

ていばーく所蔵錦絵紹介（保永堂版②⑧）

### 東海道五拾三次之内 袋井 出茶屋ノ図



大木の生えた一里塚の前に出茶屋があり、そこでくつろぐ人々が描かれています。

茶屋の縁台には道中差に胸当て姿の旅人が煙管を手に腰掛けており、外した笠の脇には湯呑み茶碗が見えます。大木の枝に吊るされた「やかん」が竈に掛けられ、湯を沸かすために茶屋の女将が急いで火を起こしたためか、竈から煙がもうもうと上がっています。駕籠かきがその脇でのんびりと煙草に火を付けています。

ていばーく所蔵資料紹介④①

### コンクリート製のポスト



戦線の拡大によって、昭和13年4月に国家総動員法が公布され、一般社会においても鉄鋼の使用節約、制限が要求されるようになり、鉄製ポストに代わる代用品の研究が行われました。

その結果、差入口と取出口の2箇所のみが鉄製で本体の大部分がコンクリート製の写真のようなポストが作られました。

終戦後、焼け跡に残されたポストは外形を留めるだけでしたが、行方を尋ねる紙が張られ連絡用として利用されました。

（錦絵 / 資料解説：附属資料館 井上卓朗）